

150年の伝統を

岡崎市立梅園小学校 野村 隼斗

今年度梅園小学校は、開校150周年をむかえ『祝 開校150周年記念大運動会』を行う予定であった。しかし、緊急事態宣言が発出されたことにより「徒競走・玉入れ・学級対抗リレー」と「2学年合同の表現運動」に分けて、別日に行くことになった。学級対抗リレーでは、家族の応援を楽しみにしていた子供たちの戸惑いを感じる場面もあったが、熱意を失わず、ひたむきに努力する姿を見ることができた。

特に5・6年生の表現運動では、開校150周年記念として「つながる」をテーマに、表現の一部分を子供と教師が話し合っって創作することにした。そこで梅園小学校を代表するクスノキなどを表現することと、迫力のある演技にするために手旗を使うことになった。そして手旗や隊形、体の使い方などを工夫したことで、発表会では、力のこもった表現運動を見せることができた。

今回の「つながる」をテーマにした創作活動により子供たちは本校の歴史と伝統の一端を考えることができた。今後も多くの活動を子供や教師で模索し、伝統に新たな1ページを加えてきたいと思う。



攻める水平バランス



梅の花が咲き誇る様子を表現



くすくん(クスノキ)の力強さを表現

夏山の顔となれ!

岡崎市立夏山小学校 原山 昇士

「夏山小学校の顔として何ができるのか考えよう。」私が担任をしている5・6年生に4月から言い続けた言葉である。運動会は、学校や地域を盛り上げるチャンスであり、5・6年生はやる気に満ちあふれていた。私自身も、昨年の運動会が開催できなかったため、今年こそは開催したいと人一倍思っていた。そんな思いの中、運動発表会の種目はコロナ感染防止の視点を持ち、計画をしていた。運動発表会の花形種目である一輪車演技は、児童同士の距離を保つことを徹底した。そして夏山合戦と呼ばれるくす玉わりは、接触の少ないしっぽ取りへと変更をした。万全の対策で運動発表会に臨んだ。

運動発表会の練習開始から2週間が経ち、子供のパフォーマンスも最骨頂に達していた。そんな中、緊急事態宣言が延長され、学区や保護者の演技とは切り離し、子供たちだけの運動発表会として行うことが決定した。「自分たちで、今できることを精一杯やろう」という思いは、必ず学区の方、保護者の方に伝わると信じた。そして、子供たちの練習にも、一層、熱がこもっていった。

迎えた本番。今までの練習の成果を発揮しようと子供たちの目は光り輝いていた。一輪車の演技では、練習でできていたことができなかつた。前日の雨で、水を含んだグラウンドにタイヤがとられ何度も転んでしまった。でも、諦める子供は一人もいなかった。最後までやり抜く姿に、この日一番の大きな拍手が送られた。最後まで諦めない、その姿に心が揺れ動いた瞬間であった。

運動発表会が終わり、「一輪車が成功できなくて悔しいけど、最後までやり切れてよかった。」とたくさんの子供が口にした。運動発表会を通して、夏山小の顔として一歩ずつ成長していると実感した。

どんな状況でも全力で取り組む姿を見て、運動発表会をやって良かったと胸を張って言える。それは、子供たちが最後までやり抜く達成感を得たことと夏山小学校の顔に一歩近づいたことだ。これから迎える様々な困難にも諦めずに立ち向かってほしい。そして私は、子供の可能性を引き出し、活躍できる場面を増せる教師を目指していきたい。



悪戦苦闘しながらも真剣に取り組む一輪車



仲間と力を合わせたメリーゴーランド